

代 表 者

院 去

視 察 （ 研 修 ） 報 告 書

令和6年2月26日

会 派 代 表 者 様

呉市議会議員

院 去 裕

次のとおり視察（研修）に参加したので報告します。

1. 視察期日

令和6年1月21日（日）～令和6年1月24日（水）

2. 視察項目

- ・世田谷区教育委員会 I C T活用方針について
- ・放課後 N P Oアフタースクールについて
（研修項目）
- ・地方議員のための地域経済分析システム R E S A S 活用【基礎編】【応用編】

3. 参加議員

新しい風 代表 院去 裕

■視察項目

- ・世田谷区教育委員会 I C T活用方針について

- ・視察団体及び講師氏名

世田谷区教育委員会事務局

教育総合センター長 宇都宮 聡

教育研究・ICT推進課長 山口 信忠

教育研究・ICT推進課 教育ICT推進担当係長 日高 雄三

教育研究・ICT推進課 指導主事 栗山 幸大

- ・視察日

令和6年1月22日（月）9時30分～11時00分

【視察目的】

- ・世田谷区における教育D X推進に向けた取組み

【視察内容】

- ・子どもたちが活躍する頃の社会の変化
- ・世田谷区の学習系・事務系ネットワークの全体像
- ・世田谷区における教育D X推進の取組み状況
- ・今後の課題

【質疑応答】

- ・先生向け・子供向け・保護者向けの配布資料や実践事例動画などを作成した理由と反応について。

世田谷区における教育D X推進において、当初から自宅での学習利用を推進していたことから、各家庭・保護者からの理解が必要不可欠と考え、令和2年度のGIGAスクール関連事業の実施当初から保護者向けWebセミナーの開催、リーフレット、世田谷区教育委員会の I C T活用方針のホームページにより、広報、周知活動を積極的に実施した。反応に関しては、先生方からは、I C Tの習熟度に個人差・学校差が大きく困り感が違うため、そのニーズに寄り添いながら研修会の開催や情報提供をしている。I C Tの活用について推進していく力のある先生方を「I C Tインフルエンサー」に任命し、研修会や学校からの質問に対する回答などを自主的に行っている。子供・保護者からは、区の広報や周知活動によって、家庭内でネットやタブレット端末利用のルールを決めて上手に活用できるという声が聞こえる一方、学校や教育委員会で制限をかけてほしいという意見も一定数あった。

- ・GIGAスクール構想を進めるなかで、保護者の理解度について

広報、周知活動に力を入れてきたこともあり、タブレット導入に大きな混乱はなかった。児童・生徒用タブレット配備当初、「誰かに教わるだけでな

く、自分で学びをすすめるためのタブレット端末」と位置づけ、児童・生徒が自由に使えるよう、できるだけ制限をかけない設定で配備しました。しかし、活用が進んでいく中で、保護者利用制限機能（スクリーンタイム）の開放を要望する声が大きくなったこと等を踏まえ、令和5年1月より当該機能を開放しました。

・AIドリル（Qubena）の機能、効果及び仕様上の注意について

現在世田谷区が導入しているAIドリル（Qubena）の機能には、個人の学習履歴をもとにAI分析から、一人ひとりの学習状況に応じた最適な問題を、学年の枠を超えて自動出題し、学び直しができるようになっている。その効果は、令和4年度の活用率と、学習習得確認調査の結果より、活用率が高い学校ほど、知識・技能に関する正答率が高くなる傾向があった。一方で活用率が上がらない学校があり、その理由に、従来のドリルの活用が定着していることが背景にある。従来のドリルの代わりに使用したり、朝学習に活用したりするような取組みが必要である。使用上の注意としては、正答しないと類似問題を延々と出題される設定になっており、子どもの意欲を低下させてしまうことがある。取組時間で自動終了する設定などがあるので、子どもへ配信する前に設定を確認するようにする。

【呉市での展開の可能性】

- ・呉市では、AIドリル（Qubena）について、令和5年1月から試験導入しているが、児童・生徒だけでなく、保護者からも大変好評とのことであった。ICT活用指導力である「教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力」「授業にICTを活用して指導する能力」「児童・生徒のICT活用を指導する能力」「情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力」の四つの能力向上のため、研修の充実も図っている。児童・生徒に対する一人一人に応じた学びの支援、教職員の更なるICT活用指導力向上をはかることで、GIGAスクール構想の着実な推進が今後も求められる。

■視察項目

- ・放課後NPOアフタースクールについて
- ・研修団体及び講師氏名
特定非営利活動法人放課後NPOアフタースクール
事業開発チーム 放課後デザイナー
内田 美菜子
コミュニケーションデザインチーム ファンドレイズ担当
上原 惇
- ・視察日
令和6年1月23日（火） 10時00分～11時00分

【視察目的】

- ・放課後NPOアフタースクールについて

【視察内容】

- ・一体型施設運営 学童保育と放課後子ども教室の一体型運営
- ・放課後子ども教室運営 放課後子ども教室の活性化や質の向上
- ・放課後総合コーディネーター支援 放課後子ども教室の各種課題解決
- ・放課後事業に関するコンサルティング全般
- ・研修 放課後関係者へのノウハウ提供

【質疑応答】

- ・放課後子ども教室の運営にあたり、費用面、安全面、管理面について伺った。教室で使用する画材など材料費は負担はなし。おやつはアレルギーの子どももあり、出す場合は取り決めが必要である。下校時の安全確認は、シルバーの方が道に立つことがあるものの、地域によって方針が違うため、確認し対応することが重要です。管理面は、ボランティアの場合、責任の所在が不明確になるため、委託にするほうが明確になる。PTAとの共同運営の場合に、教育委員会が最終責任を負うこともあります。子どもに関することなので、民生、文教両面の視点が重要であり、方針を明確にした運営が重要です。

【呉市での展開の可能性】

- ・視察先は、子どもの放課後の居場所「アフタースクール」を運営・企画、全国で小学校施設を活用し、地域とともに子どもを育てるアフタースクールモデルを作っています。各地域ニーズに合った形で放課後の居場所づくりを行っています。呉市では、放課後児童会を運営しています。今後、学童保育のニーズの多様化、質の向上、プログラム開発、スタッフの育成など様々な課題があると思います。民間のノウハウを活用することは大事ですが費用対効果を検証のうえ、教育委員会、子ども部など関係部署の横の連携により、呉市の子どもの放課後づくりが行えると思います。

■研修項目

- ・地方議員のための地域経済分析システムRESAS活用

【基礎編】 【応用編】

- ・研修団体及び講師氏名

地方議員研究会

榎並 利博

- ・研修日

令和6年1月24日（水）

【研修目的】

- ・地域経済分析システムRESASを理解し、地域経済に関するビッグデータを活用することで、呉市を現状把握し地方創生に役立てたい。

【研修内容】

- ・地方議員のための地域経済分析システムRESAS活用【基礎編】
RESASの概要
人口マップによる自治体の将来予測
地方財政マップによる財政状況の把握
- ・地方議員のための地域経済分析システムRESAS活用【応用編】
RESAS活用と議員の役割
地域経済循環の把握による課題分析

【呉市での展開の可能性】

・RESASという地域経済分析システムは、地方議員、地方自治体の職員はもちろん、民間事業者のビジネスにも役立ちます。さまざまな種類の細かいデータがあり、現状把握から将来分析までを具体的な数値が示されます。RESAS活用により、呉市の課題を数値で把握することができます。同規模や近隣の自治体とのデータ比較も行うことで、感覚的でない具体的な数値をもって予算審議や当局への提言に繋げていきたい。